

当社の成長性についての資料 2016

～超並列・超分散・超高速～ IoT-Matrix の世界へ

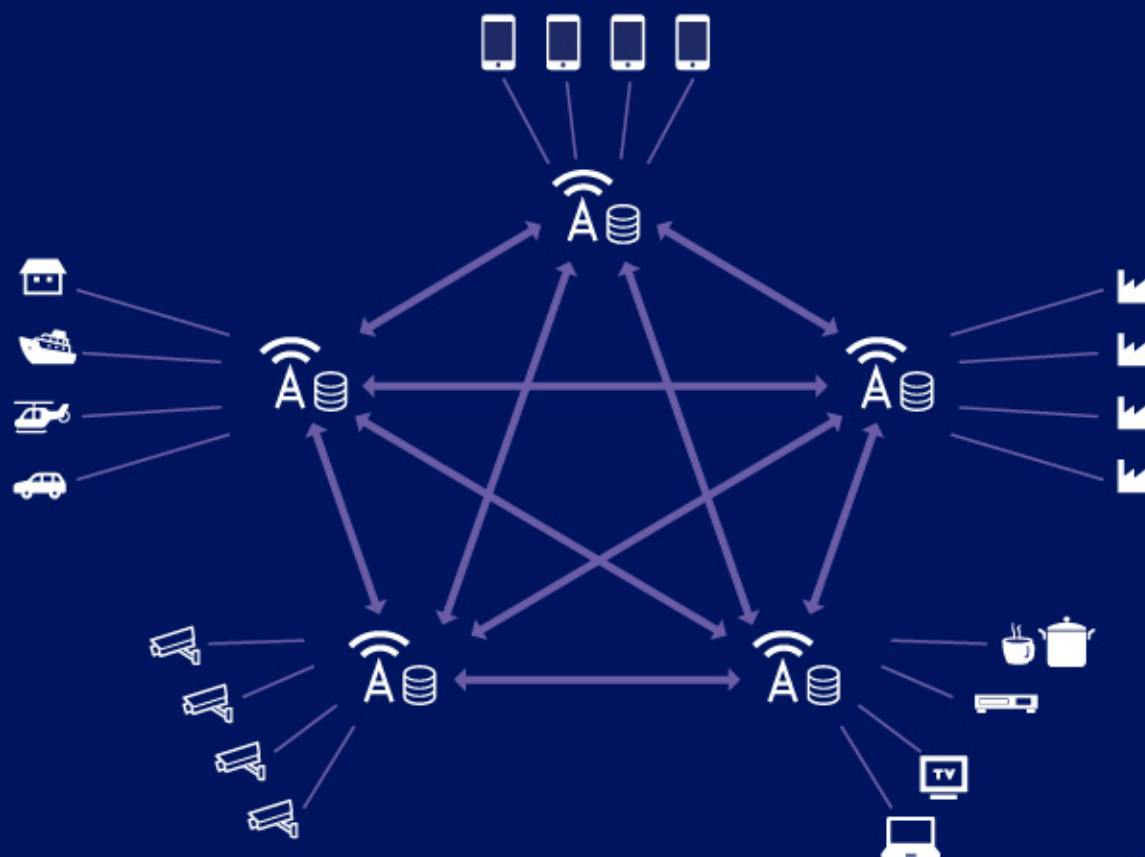
決算説明会 配布資料

JIG-SAW

Auto Sensor-ing & Auto Direction

データは分散型エッジ超並列高速処理へ

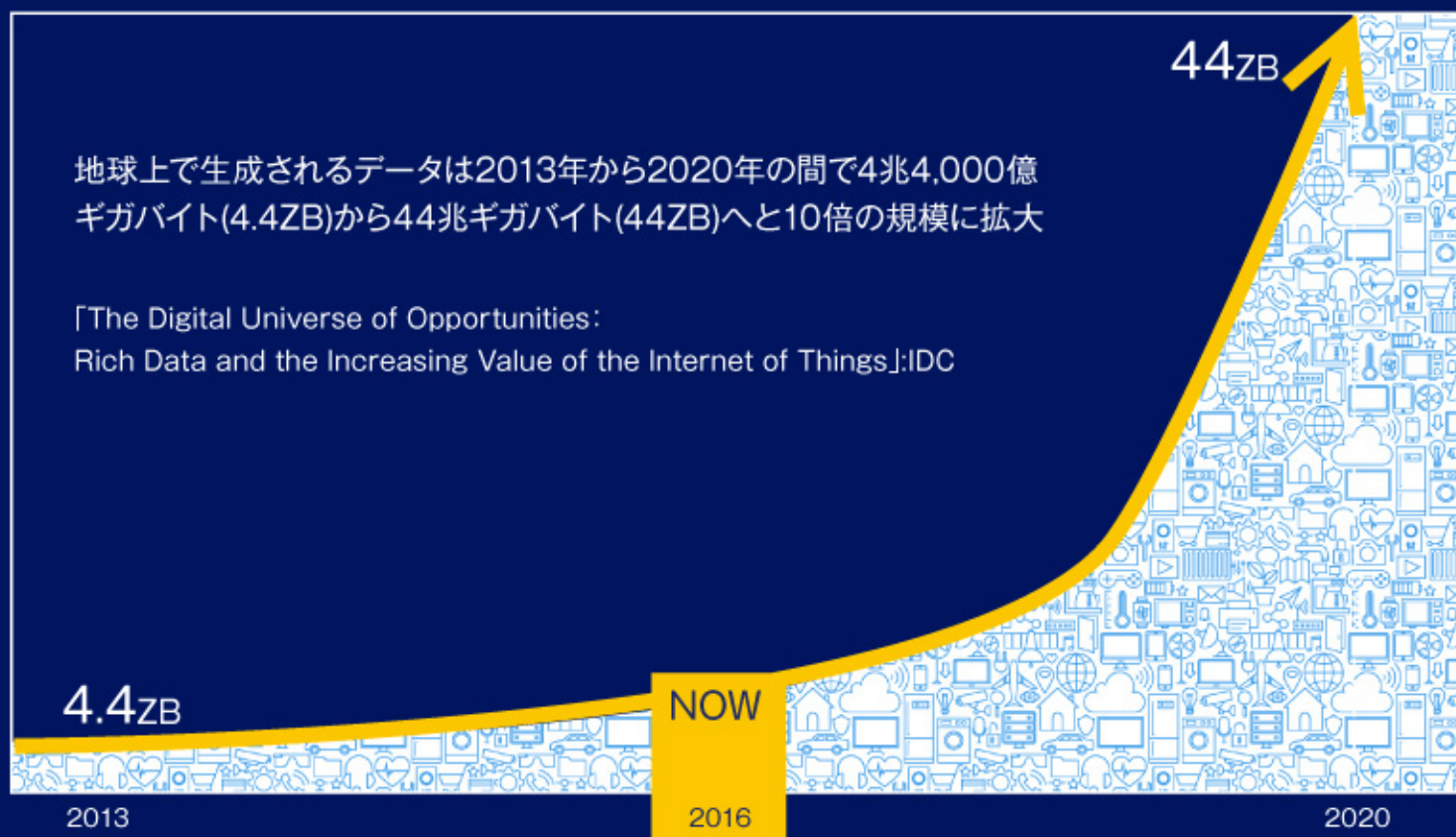
* E2E^{*}では「エッジで大規模なデータが高速に処理」され、
 現行レベルにとどまるレベルでのクラウドやデータセンターは
 不要な時代が近づいている



* E2E: End to End / 通信ネットワーク・プロトコルの原理。本来、高度な通信制御や複雑な機能は末端(エッジ)システムが実行する。経路上のシステムは単純な中継・転送のみを実行。

当社の事業環境：第4次産業革命

人が生むデータ→IoTが生むデータへのパラダイムシフト



当社事業環境は強烈な追い風真っ只中

IoT・エッジコンピューティング

「ヒトのインターネット→モノのインターネットの時代」

- ・人を対象にしたインターネット(ヒトのインターネット)とは別の世界
- ・ミドルレイヤー(※後述)は今の「アプリ・ゲーム・EC・SNS等」を意味する
- ・人の目には触れない(つながるモノが全て自動で見えないところで動く)
- ・データボリュームは2020にヒトのインターネットの10倍以上
- ・巨大検索・ポータル時代の次のジェネレーション

当社のスタンス

まず、時価総額**5,000**億円を通過点とする

世界のIoT市場規模は**365兆円**。^{*}

当社はその「**1%の獲得**」に向けてのみ邁進する。

そのための布石や基盤の取組みを前期に取り組んだ。

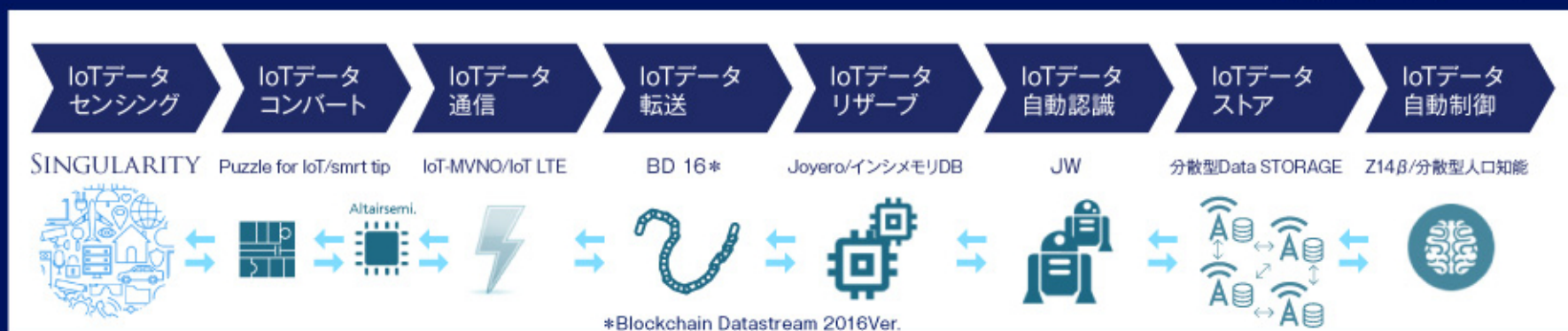
今期は急激な成長を目指す。

^{*}IDC Japan 18/Nov/2014

新たな課金モデル

IoTデータコントロールチェーンを航路図に、分散型E2E-DCA*を作り上げた。
それをベースに新たな課金モデル「モノ:エッジ監視」を開始。

合わせて新しく8種類の 課金モデル投入。 *DCA:データコントロールアーキテクチャ (当社データコントロールサービス総称)



多様な自動課金ポイント



モノの増加・データボリューム増加が自動的に課金増加につながる